

三瓶登山と

ホーランエンヤ

<山田 亨>



心の中から喜びと深い感動を覚えた。

5月に帰郷することは今年の初め、早くから計画していたことであつた。それは少年時代、石見大田に1年半ほど住んでいながら登らなかつた三瓶山登山を実行すること、これも東京にいていつも気にしながら、いまだ見ぬ有名なホーランエンヤを見ることであつた。

誇り、国立公園の一角を占め、また日本二百名山の一つとも言われるこの山に74歳にして初めて登頂でき、念願かなつて充実感を感じた。

三瓶山は5月21日に登つた。前夜、国民宿舎さんべ荘に泊まり、豊富な湯の温泉に入り鋭気を養つた。女三瓶からの尾根筋では、過去、私の登山経験ではあまり記憶にないほどの強風にあおられ、立っこともできず、体勢を低くして歩かざるを得なかつた。天候は雨模様であつたが、くにびき大橋と新大橋の間の北岸から見ることにして、適当な場所を選んで陣取つた。そこから船団の移動とも

3日後の24日、ホーランエンヤの還御祭を大勢の人たちと見ることになった。12年ごとに行われる神事では、弘布という面では残念ではあるがやむを得ない。このたび見聞することにして、適切な場所を選んで陣取つた。それは、今後、機会あることに多くの人にその素晴らしさを話し、伝えていきたい

深い感動覚えた船神事

に私も移動することにして、大橋川での権伝馬船(かいでんません)の旋回を全部見ることにした。先頭船がやってきた。ついで二番船、三番船と各地区の権伝馬船が続き、唄と踊りが一体となつたこの実に魅力的な船神事、松江市の無形文化財となっているものを初めて見る事ができ、

旅は、多くの収穫を得て有意義なものであつた。(元吉川弘文館編集部 長、松江市島根町加賀出身)



ホーランエンヤの還御祭(5月24日撮影)